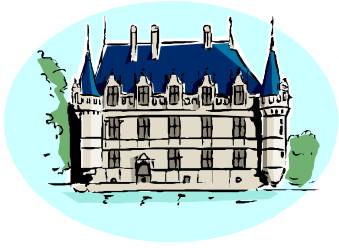


いいところで、近い沖縄



おきなわF B短信 (15) (1分間で読めます。)

平成 21 年 3 月 6 日 (金)

去年の 11 月、ファミリービジネス研究所のコンファレンスがあった。
場所は長崎のハウステンボス、2泊3日の長崎の秋で学び、楽しんだ。
ハウステンボスは、博多から新幹線で1時間40分。
1時間40分というのは結構長い、電車に乗っている間、一体どこへ連れて行かれるのかという気分であった。
到着すると、全く異なった景観が突然現れた。日常から大きく離れた空間に入ったという感じがした。

ハウステンボスは、オランダの400年の国づくりに学びながらストーリーを作り、「人と自然が共存する新しい街」を目指して3,000億円の巨費を投じて造られた。当初、目標とされたのは、年間400万人の入場者、500億円の売上高というものであった。ところが計画とは大きく相違し、その2分の1にも満たず倒産し、経営が変わったという。今後は、内容の充実した、ほんとうの1000年の街づくりをして、私が今、そこで感じた、静かな、自然にあふれた発展をしてもらいたい。

日本のテーマパークは、米国生まれのディズニーランドやユニバーサルスタジオを除いて、ほとんどが過大投資と集客の見込み違いで苦境に陥っている。それには明確な理由があるようである。

ハウステンボスはとてもいいところである。しかし遠い！もう一度となると遠さを感じてしまう。帰りの1時間40分の電車の中で考えた。

沖縄をハウステンボスと比較するのは、少し方向違いかもしれない。しかし、両方とも他とは分離された空間であり、つい、一緒に考えてしまう。ハウステンボスはテーマパークである。沖縄も広くとらえるとそれ自体でテーマパークであるともいえるのではないか。

空港を出ると、10分余で那覇の街へ入る。少しドライブして南へ足(車)を伸ばせば、戦跡や玉泉洞へ行ける。那覇を抜けると首里城がある。

那覇で泊まってからでもよし、その足でも、北部のリゾート地へ、或いは宮古、八重山の離島を訪れることが出来る。

とてもいいところである。しかも全てが近い！感じが良ければ、もう一度訪れるのに抵抗はない。それだけに、沖縄には良きホストの心構えが必要である。

観光資源の開発、ゲストの暖かい受入れ、交流、経済効果の促進と享受、そして何よりも大切な自然環境の保全…。